

平成20年度第3四半期における運用状況等

独立行政法人農業者年金基金は、年金資産の安全かつ効率的な運用を行っており、法令に基づき策定しました「独立行政法人農業者年金基金中期計画」において、四半期ごとの運用に関する情報を、本資料をもってホームページで公表することとしております。

なお、毎年6月末日までに被保険者等の皆様に送付させて頂いております「運用（付利）結果のお知らせ」の基礎となります前年度の運用成績につきましては、毎年度の末日における運用収入の額が基準となります。

当基金が行っています年金資産の運用については、金融・経済情勢等の運用環境の影響により、短期的には、運用成績がプラスになる年やマイナスになる年がありますが、長期的な運用により安定した運用収益を上げることが期待されます。

今後とも、安全かつ効率的な運用を徹底して参りたいと思っておりますので、皆様のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

【参考】

独立行政法人農業者年金基金中期計画（平成20年3月31日認可）－抜粋－

2 年金資産の安全かつ効率的な運用

(4) 年金資産の構成割合、運用成績等については、四半期ごとにホームページで情報を公開するとともに、加入者に対して、毎年6月末日までにその前年度末現在で評価した個々の加入者に係る運用結果を通知する。

目 次

	頁
1. 平成20年度第3四半期（平成20年10月～12月）における運用環境について	1
2. 平成20年度第3四半期（平成20年10月～12月）のポートフォリオ別の運用状況	2
3. ベンチマーク・インデックスの推移	4
参考：用語の説明	5

1. 平成20年度第3四半期（平成20年10月～12月）における運用環境について

○国内外の金融・経済情勢について

10月は、米大手証券会社の破綻に始まった市場の混乱の実体経済への影響が鮮明になりました。市場の緊張感が一段と高まり、世界的な景気後退懸念が高まる中、各国政府による主要金融機関への公的資金注入及び救済、協調利下げ等の実施も株価の下落を止めることはできず、27日には日経平均株価がバブル崩壊後最安値を更新しました。為替市場でも、リスク回避目的の円買いが加速したことにより、ドル・ユーロに対して円高が急進行し、金融危機の影響が比較的軽微であろうと考えられていた国内においても景気見通しが大幅に悪化、金融機関の資本毀損も意識される状況となりました。

11月には、日米欧で公表された各種の経済指標も大きく悪化したことを受け、景気に対する先行き懸念が一層高まり、世界的に株式市場は下落傾向となりました。そのような中、米国自動車大手3社の資金繰り難とその救済策の迷走、さらには米大手銀行の経営不安などもあり、20日には世界的な株価暴落となりました。しかしながら、米国における大手銀行の救済策や追加金融対策の発表、原油価格の下落などが好感され、月末にかけて株価は反発しました。為替市場においては、世界的な株安・金融不安を背景に、リスク回避目的な円買いが継続され、ドル・ユーロに対し円高で推移しました。

12月には、日欧米の各種経済指標が急激な悪化を示すとともに、日本の実質GDP成長率が2四半期連続マイナスとなり、米欧の同成長率もマイナスとなったことが明らかとなりました。また、米議会で米自動車大手3社の救済法案が12日に上院で否決されたため、外国為替市場ではドルが急落し、円相場は一時13年ぶりの円高水準となりました。その後、FRBが16日に政策金利の誘導目標を0～0.25%に引下げを決定したことにより、金利の高い円買いの動きが強まりました。国内においては、世界的な景気減速を背景に、生産ラインの稼働停止や人員削減が進められました。このような中、日銀は19日に政策金利の0.1%への利下げと資金供給拡充策を決定しました。国内外の景気悪化やFRB・日銀による大幅な金融緩和策により、金利が急低下しました。なお、米自動車大手の経営危機は、米政府が金融安定化法を活用することで、ひとまず決着しました。また、原油相場は昨年夏から急落に転じたあと、OPECの大幅減産合意後も歯止めがかからず、上昇相場が始まる前の水準まで戻りました。

（注）資産毎の「ベンチマーク・インデックスの推移」を4ページに掲載しておりますので、ご参照下さい。

2. 平成20年度第3四半期(平成20年10月～12月)のポートフォリオ別の運用状況

①被保険者ポートフォリオ

平成20年度第3四半期(平成20年10月～12月)における被保険者及び待期者に係る資産の運用状況は、次表のとおり、平成20年12月末の時価総額は1,114億31百万円となり、第3四半期の総合収益は-64億円となりました。また、修正総合利回りは-5.63%となりました。

平成20年度通期(平成20年4月～12月)の総合収益は-92億1百万円、修正総合利回りは-8.05%となりました。

(単位:百万円、%)

資産	平成20年9月末 時価総額①	第3四半期保険料・ 国庫補助投下額②	計 ③(①+②)	平成20年12月末 時価総額④	時価総額 構成割合	第3四半期総合収益 ④-③	(参考) 修正総合 利回り
国内債券	81,417	-206	81,211	82,358	73.9	1,146	1.41
国内株式	13,053	1,563	14,615	11,950	10.7	-2,665	-19.15
外国債券	5,702	-48	5,653	5,028	4.5	-625	-10.98
外国株式	12,379	-84	12,295	8,057	7.2	-4,238	-34.45
短期資産	151	3,905	4,056	(注)2参照 4,037	3.6	-19	-4.54
合計	112,701	5,130	117,831	111,431	100.0	-6,400	-5.63

(注) 1. 「第3四半期保険料・国庫補助投下額②」では、受給権者ポートフォリオ等への繰入額が除かれています。

2. 平成21年分「前納納付の保険料」等の基金への集中が12月末であったことによるものです。

3. 有価証券の保管手数料及び外貨流動性預金に係る為替差損益等は、短期資産で整理しています。

4. 単位未満を四捨五入しているため、合計が合わない場合があります(以下同じ)。

(参考)

平成20年度通期(平成20年4月～12月)の運用状況

(単位:百万円、%)

資産	平成19年度末 時価総額①	平成20年度保険料・ 国庫補助投下額②	計 ③(①+②)	平成20年12月末 時価総額④	時価総額 構成割合	平成20年度総合収益 ④-③	(参考) 修正総合 利回り
国内債券	80,207	794	81,002	82,358	73.9	1,356	1.68
国内株式	15,108	691	15,799	11,950	10.7	-3,849	-27.62
外国債券	3,229	2,548	5,777	5,028	4.5	-748	-13.09
外国株式	9,200	4,742	13,942	8,057	7.2	-5,885	-43.25
短期資産	2,140	1,972	4,112	4,037	3.6	-75	-20.41
合計	109,884	10,748	120,632	111,431	100.0	-9,201	-8.05

②被保険者危険準備金ポートフォリオ

平成20年度第3四半期(平成20年10月～12月)における被保険者及び待期者に係る付利準備金及び調整準備金の運用状況は、次表のとおりとなっています。
(単位:千円、%)

区 分	資 産	平成20年9月末 時価総額 ①	第3四半期繰入額 ②	計 ③(①+②)	平成20年12月末 時価総額 ④	第3四半期総合収益 ④-③	(参考) 修正総合 利 回 り
付利準備金	短期資産	723	355	1,077	1,077	0	0.04
調整準備金	短期資産	459,355	-2,248	457,107	458,103	996	0.22
合 計		460,077	-1,893	458,183	459,180	996	0.22

(注)「第3四半期繰入額②」では、被保険者ポートフォリオからの受入額が含まれ、受給権者危険準備金ポートフォリオへの繰入額が除かれています。

③受給権者ポートフォリオ

平成20年度第3四半期(平成20年10月～12月)における受給権者に係る資産の運用状況は、次表のとおりとなっています。
(単位:千円、%)

資 産	平成20年9月末 時価総額 ①	第3四半期繰入額 ②	計 ③(①+②)	平成20年12月末 時価総額 ④	第3四半期総合収益 ④-③	(参考) 修正総合 利 回 り
国内債券	1,547,435	440,897	1,988,332	2,070,271	81,939	4.81
短期資産	69,511	-18,283	51,228	51,289	61	0.11
合 計	1,616,946	422,615	2,039,560	2,121,560	81,999	4.66

(注)「第3四半期繰入額②」では、被保険者ポートフォリオからの受入額が含まれています。

④受給権者危険準備金ポートフォリオ

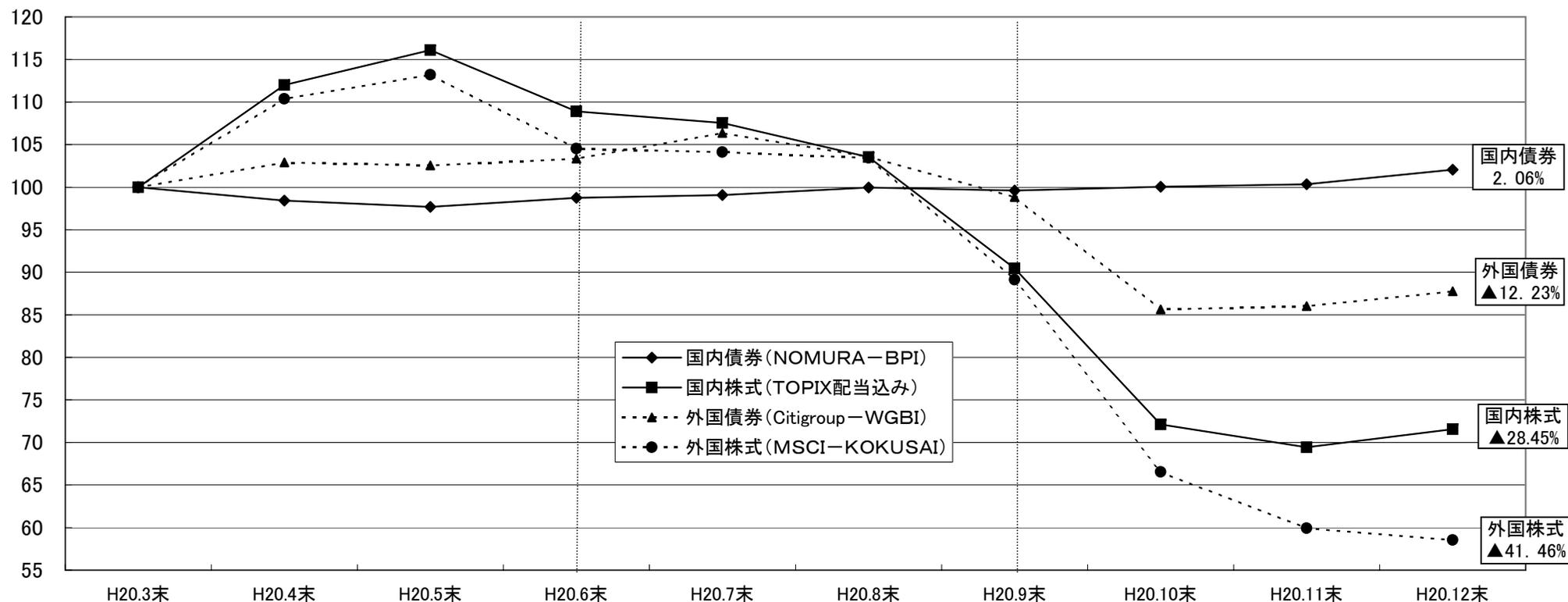
平成20年度第3四半期(平成20年10月～12月)における受給権者に係る調整準備金の運用状況は、次表のとおりとなっています。

(単位:千円、%)

区 分	資 産	平成20年9月末 時価総額 ①	第3四半期繰入額 ②	計 ③(①+②)	平成20年12月末 時価総額 ④	第3四半期総合収益 ④-③	(参考) 修正総合 利 回 り
調整準備金	短期資産	193,446	17,223	210,669	211,093	424	0.21

(注)「第3四半期繰入額②」では、被保険者ポートフォリオ等からの受入額が含まれています。

3. ベンチマーク・インデックスの推移 (H20.3末=100)



○運用環境

	平成20年3月末	平成20年6月末	平成20年9月末	平成20年12月末
国内債券(新発10年国債利回り)	1.274 %	1.590 %	1.460 %	1.163 %
(NOMURA-BPI総合)	312.047 ポイント	308.113 ポイント	310.842 ポイント	318.472 ポイント
国内株式(日経225)	12,525.54 円	13,481.38 円	11,259.86 円	8,859.56 円
(TOPIX配当込)	1,450.00 ポイント	1,579.09 ポイント	1,311.57 ポイント	1,037.53 ポイント
外国債券(米国10年国債利回り)	3.425 %	3.964 %	3.829 %	2.230 %
(Citigroup-WGBI)	338.08 ポイント	349.45 ポイント	334.10 ポイント	296.73 ポイント
外国株式(NYダウ)	12,262.89 ドル	11,350.01 ドル	10,850.66 ドル	8,776.39 ドル
(MSCI-KOKUSAI)	1,419.472 ポイント	1,483.695 ポイント	1,264.948 ポイント	831.017 ポイント
為替レート(対ドル)	99.53 円	106.01 円	106.17 円	90.65 円
(対ユーロ)	157.72 円	167.02 円	149.12 円	126.00 円

用語の説明

○ ポートフォリオ

性質が同じ資金をまとめて運用するための運用単位のこと(同義語 ファンド)。

○ 総合収益

利息、配当金や売買損益といった実現損益だけではなく、評価損益や未収収益を加味した収益のこと。

○ 修正総合利回り

総合収益を運用元本に時価の概念を加味した残高で割って算出した収益率のこと。運用成績の開示に広く用いられている。

修正総合利回り = (総合収益) ÷ (運用元本平均残高 + 前期末評価損益 + 前期末未収収益)

○ ベンチマーク・インデックス

各資産を代表する銘柄から構成される指標のこと。それぞれの資産を運用する基準として、基金が採用しているものである。

* NOMURA-BPI総合

野村証券金融経済研究所が作成している国内債券市場の指標。国内で発行された残存1年以上の固定利付債から構成される。国内債券市場の代表的な指標である。

* TOPIX(配当込)

東京証券取引所が作成している国内株式市場の指標。東証一部全上場銘柄から構成される。国内株式市場の代表的な指標である。

* Citigroup-WGBI(日本を除く)

シティグループが作成している外国債券市場の指標。主要先進国(除く日本)が発行する国債から構成される。外国債券市場の代表的な指標である。

* MSCI-KOKUSAI(配当込)

モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社が作成している外国株式市場の指標。主要各国(除く日本)の証券取引所上場銘柄から構成される。外国株式市場の代表的な指標である。